

科目名	体育	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース	
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	現代文B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	・ 伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	・ 文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えを深めている。	・ 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
基	・ 伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	・ 文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることができる。	・ 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重している。
準	・ 伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につける努力が見える。	・ 文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする努力が見える。	・ 国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする努力が見える。
評価方法	・ 定期考査 ・ 課題確認テスト ・ 漢字テスト ・ 授業の取り組み姿勢	・ 定期考査 ・ 課題確認テスト ・ ノートの整理 ・ 授業の取り組み姿勢	・ 授業に臨む姿勢、意欲 ・ ペア学習、グループ学習

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『文学の未来』（評論）『言語と記号』（評論）『檸檬』（小説）『スペインタイルの家』（小説）
2 学期	『クレールという女 言葉を生きる』（随想）『社会の壊れる時』（評論）『他者の声 実在の声』（評論） 共通テスト対策
3 学期	

何で学ぶか (教材)

・ 精選現代文B（東京書籍） ・ 精選現代文B 学習課題ノート（東京書籍） ・ 常用国語便覧（浜島書店） ・ 各種補助教材（プリント等）

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習、グループ学習 プリント教材

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	古典を読むことを通して、我が国の文化の特質や外国の文化との関係について理解を深めることができる。	古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	古典作品を、自らの考え方や生活に結び付けながら読もうとすることができる。
基	古典を通して、先人のものの見方や感じ方、考え方を理解することができる。	作品の成立した背景や他作品などとの関係を踏まえて古典を読み、内容の解釈や作品の価値の考察ができる。	古典作品を通して書き手の思いや当時の文化を理解しようとする姿勢をもつことができる。
準	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響を理解できる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解できる。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・古文 随筆(枕草子)、物語(源氏物語)、日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・漢文 史伝(三国志・史記)、逸話(不顧後患・孔明臥竜)、漢詩
2 学期	・古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集)、歴史(大鏡) ・漢文 史伝、思想(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・共通テスト対策
3 学期	・共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

・教科書 『新探求古典B古文編』(桐原書店) 『新探求古典B漢文編』(桐原書店) ・副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) ・『新明説漢文』(尚文出版) ・『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・ペア学習 ・グループ学習 ・問題演習
--

科目名	国語表現演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けたいと、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S A B C	自分の思いや考えを伝えるために多彩な言語表現を用いることができる。	互いの主張や論拠を吟味して、話合いの進行や展開を助けながら、話合いの仕方や結論の仕方を工夫できる。	他者の意見を傾聴たうえで、自分の意見を深めたり広げたりしようとする姿勢をもつことができる。
	実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方について理解を深めることができる。	論点を明確にして相手の話を聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	話し合い活動やスピーチを通して他者の意見を傾聴しようとする姿勢をもつことができる。
	省略や反復など表現の技法について理解を深め、使い分けすることができる。	自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫することができる。	自分の意見を相手に伝えようと工夫する姿勢をもつことができる。
	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、目的や場面に応じた適切な表現を使い分けすることができる。	実社会の問題や自分に関わる事柄の情報を収集し、整理して伝え合うことができる。	自分の意見を相手に伝えるために必要な方法を身に付けようとすることができる。
評価方法	授業・提出物	授業・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・ 小論文入門 小論文と作文との違いを明確にする ・ 小論文基礎 理由や根拠をもとに自分の意見を述べる
2 学期	・ 小論文展開 課題文を要約する 課題文を踏まえて自分の意見を述べる ・ 小論文応用 自分の意見をスピーチしたり討論したりする
3 学期	

何で学ぶか (教材)

・ 新聞やインターネットの記事 ・ 過去問題

どのように学ぶか (授業方法など)

・ 講義 ・ グループ学習 ・ 問題演習
--

科目名	数学ⅠA演習	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の定着と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
基	わかる 複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基	できる 課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	する 基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析
2 学期	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 ⅠA総合問題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 上級演習PLAN120』 補助プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学ⅡB演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	基礎から実践的な問題を解くことを通して数学における基本的な知識や技能の習得を図り、事象を数学的に捉えて処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
基	わかる 複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	できる 課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	する 基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学期	微分法と積分法 ベクトル 数列
3 学期	

何で学ぶか (教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 上級演習PLAN120』 補助プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語表現Ⅱ	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
	A わかる 言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	B できる 英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
	C する 英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物 ・インタビューテスト	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	PART 2 文章を組み立てる Lesson 1 文と文をつなぐ Lesson 2 パラグラフ①構成/列挙・順序 Lesson 3 パラグラフ②例示・追加
2 学期	Lesson 4 パラグラフ③比較・対照 Lesson 5 パラグラフ④原因・理由・結果 Lesson 6 要点・要約①リーディングの要約 Lesson 7 要点・要約②リスニングの要約
3 学期	

何で学ぶか(教材)

・Vision Quest English Expression II Ace (啓林館) ・Write to the Point (数研出版)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習、ペア学習 ICTを活用した個別学習

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	授業時数	週 5 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	身近な話題に関する記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取り、要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について、英語を用いて具体的に説明したり、意見を述べるができる。	英語を活用し、自ら様々なことを表現しようとすることができる。
	A わかる	身近な話題に関する短めな記事、レポート、資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて、自分の意見やその理由を短く述べることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	平易な英語で書かれたごく短い英文を読み、イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し、発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 Caffeine: The World's Favorite Drug Lesson2 Blood Is Blood Lesson3 Australia and its Creatures Lesson4 The \$ 100,000 Salt and Pepper Shaker
2 学期	Lesson5 Bilingual Effects in the Brain Lesson6 Communication without Words Lesson7 Political Correctness Lesson8 Animal Math
3 学期	

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK English CommunicationⅢ 必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	世界史B	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近代ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展
2 学期	第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の独立 第16章 現在の世界 問題演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

山川出版社『改訂版 詳説 世界史B』 啓隆社『新世界史要点ノート 応用編』 啓隆社『世界史重要語句Check List』
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	日本史B	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	原始から現代に至る歴史の展開を理解し、現代社会においての自己の在り方について理解することができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	基本的知識身に付け、歴史が複合的な要因で成り立っていることを理解することができる。	歴史的思考力を培い、国際社会において主体的に生きる日本人の自覚と資質を身につけることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	基本的知識身に付け、歴史が複合的な要因で成り立っていることを理解することができる。	日本史の基本的な流れを理解し、現代社会とのつながりなどを多面的に考察し、公正に判断することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学期	

何で学ぶか(教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	地理B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	地理Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
基	諸問題（民族・領土問題、国際関係など）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	基本的な歴史的な事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1 章 現代世界の地域区分 2 章 現代世界の諸地域 (東アジア～西アジア・中央アジア)
2 学期	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 (北アフリカとサハラ以南のアフリカ ～オセアニア) 共通テスト演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

帝国書院 新詳地理B 帝国書院「新詳高等地図」

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 作業（白地図を利用した作業など） 討議

科目名	公民	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に生きる国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとすることができる
	<i>A</i> わかる 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに、様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとすることができる
	<i>B</i> できる 選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
	<i>C</i> する 選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日々の課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	・授業 ・定期テスト ・確認テスト	・授業 ・定期テスト ・確認テスト ・提出物	・授業 ・確認テスト ・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	国際政治のしくみと動向 国際経済のしくみと動向
2 学期	国際社会の現状と課題 問題演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

東京書籍「現代社会」 東京書籍「現代社会 要点サブノート」 プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ディスカッション ペアワーク 問題演習

科目名	生物基礎演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	生物基礎で学習する内容の概要を把握するとともに、問題演習を繰り返すことで基礎的な知識を活用し、発展的な問題を解く力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を持ち、主体的に調べたり考察したりする。
	<i>A</i> わかる 基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることともに、考察することができる。	グループ活動等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	<i>B</i> できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	<i>C</i> する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	分野別問題演習
2 学期	分野別問題演習 総合問題演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

副教材 (数研出版 大学入学共通テスト チェック&演習生物基礎)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、問題演習 ペアワーク・グループワーク

科目名	化学基礎演習	授業時数	週 3 単位	3 文
		コース	志学 コース 文系	
目標	化学基礎で修得した内容を踏まえ、物質やその変化について科学的に判断し、考察をおこなうことができることを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S A B C	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、難易度の高い演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を持ち、主体的に調べたり考察したりする。
	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、標準的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることとともに、考察することができる。	グループ活動等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、基礎的な演習問題に対して答えを導き出すことができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解しようとし、演習問題に対して答えを導き出そうとする。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1編 物質の構成と化学結合 第2編 物質の変化 付録 日常生活に関連した化学
2 学期	付録 化学実験の基礎 実践演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 チェック＆演習 化学基礎』 授業プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習、実験 ペアワーク・グループワーク

科目名	地学基礎演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 文系	
目標	地学基礎で修得した内容を踏まえ、地球や地球を取り巻く環境に関する事象について科学的に判断し、考察することができることを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。	より深く探究する姿勢を持ち、主体的に調べたり考察したりする。
	<i>A</i> わかる 基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることのもとに、考察することができる。	グループ活動等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	<i>B</i> できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	<i>C</i> する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト 等	定期考査 確認テスト 等	授業態度 グループ活動 リフレクションシート 等

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	分野別問題演習
2 学期	総合問題演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

授業プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 ペアワーク・グループワーク

科目名	現代文B	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース	理系
目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えを深めている。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	・文章を的確に読み取り、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることができる。	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重している。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につける努力が見える。	・文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする努力が見える。	・国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする努力が見える。
	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて学習意欲を持つ。	・文章を読み、目的に応じた文章を書くことができ、場に応じて話したり、聞き取ろうとする意欲を持つ。	・国語で伝え合う力を高めるとともに、言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重しようとする意欲を持つ。
評価方法	・定期考査 ・課題確認テスト ・漢字テスト ・授業の取り組み姿勢	・定期考査 ・課題確認テスト ・ノートの整理 ・授業の取り組み姿勢	・授業に臨む姿勢、意欲 ・ペア学習、グループ学習

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『文学の未来』（評論）『言語と記号』（評論）『檸檬』（小説）『スペインタイルの家』（小説）
2 学期	『クレールという女 言葉を生きる』（随想）『社会の壊れる時』（評論）『他者の声 実在の声』（評論） 共通テスト対策
3 学期	

何で学ぶか (教材)

・精選現代文B（東京書籍） ・精選現代文B 学習課題ノート（東京書籍） ・常用国語便覧（浜島書店） ・各種補助教材（プリント等）

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習、グループ学習 プリント教材
--

科目名	古典B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	古典を読むことを通して、我が国の文化の特質や外国の文化との関係について理解を深めることができる。	古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	古典作品を、自らの考え方や生活に結び付けながら読もうとすることができる。
基	古典を通して、先人のものの見方や感じ方、考え方を理解することができる。	作品の成立した背景や他作品などとの関係を踏まえて古典を読み、内容の解釈や作品の価値の考察ができる。	古典作品を通して書き手の思いや当時の文化を理解しようとする姿勢をもつことができる。
準	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響を理解できる。	必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。	古典作品に進んで慣れ親しもうとする姿勢をもつことができる。
	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解できる。	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・古文 随筆(枕草子)、物語(源氏物語)、日記(蜻蛉日記・和泉式部日記・紫式部日記) ・漢文 史伝(三国志・史記)、逸話(不顧後患・孔明臥竜)、漢詩
2 学期	・古文 評論(古今和歌集仮名序・無明草子・風姿花伝・去来集)、歴史(大鏡) ・漢文 史伝、思想(荀子・孟子・孟子・老子・韓非子) ・共通テスト対策
3 学期	・共通テスト対策

何で学ぶか(教材)

・教科書 『新探求古典B古文編』(桐原書店) 『新探求古典B漢文編』(桐原書店) ・副教材 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法準拠ノート』(数研出版) ・『新明説漢文』(尚文出版) ・『重要古文単語315』(桐原書店)

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・ペア学習 ・グループ学習 ・問題演習
--

科目名	数学ⅠA演習	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の定着と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
基	複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析
2 学期	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 ⅠA総合問題
3 学期	

何で学ぶか (教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 上級演習PLAN120』 補助プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学ⅡB演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理系
目標	基礎から実践的な問題を解くことを通して数学における基本的な知識や技能の習得を図り、事象を数学的に捉えて処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	使える 生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
基	わかる 複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基	できる 課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
準	する 基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学期	微分法と積分法 ベクトル 数列
3 学期	

何で学ぶか (教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 上級演習PLAN120』 補助プリント
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学Ⅲ	授業時数	週 5 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理系
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け、別解の考察、条件の変更、異なる表現の工夫など、多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとするとともに、数学のよさを味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的、統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を、よりよい解決を求めて、粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し、適切な用語・記号を使い、解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算ができ、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第3章 関数 第4章 極限 第5章 微分法
2 学期	第6章 微分法の応用 第7章 積分法とその応用
3 学期	

何で学ぶか (教材)

・改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)
・チャート式 解法と演習 数学Ⅲ (数研出版)
・プリント

どのように学ぶか (授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材
問題解決的な手法を導入し、概念を創り出す場面を経験させたい。

科目名	数学演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理系
目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとすることができる。
基	複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
標準	基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質
2 学期	式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数・対数関数 微分法・積分法 ベクトル 数列 IA総合問題
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『大学入学共通テスト対策 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B 上級演習PLAN120』 補助プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語表現Ⅱ	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
	言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
	英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	授業・学期間考査・クリアテスト	授業・学期間考査・提出物・インタビューテスト	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	形式主語・無生物主語・自動詞と他動詞 5 文型・使役動詞・知覚動詞 直接話法と間接話法
2 学期	能動態と受動態・助動詞 関係代名詞・関係副詞・副詞・副詞句
3 学期	

何で学ぶか (教材)

啓林館「Vision Quest Ⅱ」 数研出版「三訂版 入試必携 英作文」
--

どのように学ぶか (授業方法など)

タブレット教材 グループ学習、ペア学習 個別学習

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	授業時数	週 5 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	<i>S</i> 使える 身近な話題に関する記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取り、要点を理解することができる。 <i>A</i> わかる 身近な話題に関する短めな記事、レポート、資料の概要を理解することができる。 <i>B</i> できる 平易な英語で書かれたごく短い英文を読み、イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。 <i>C</i> する 短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	関心のある分野の話題について、英語を用いて具体的に説明したり、意見を述べることができる。 身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて、自分の意見やその理由を短く述べることができる。 身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。 身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し、発音できるようにする。	英語を活用し、自ら様々なことを表現しようすることができる。 できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。 分からないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。 授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 Caffeine: The World's Favorite Drug Lesson2 Blood Is Blood Lesson3 Australia and its Creatures Lesson4 The \$ 100,000 Salt and Pepper Shaker
2 学期	Lesson5 Bilingual Effects in the Brain Lesson6 Communication without Words Lesson7 Political Correctness Lesson8 Animal Math
3 学期	

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK English CommunicationⅢ 必携英単語LEAP

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	世界史B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学	コース 理系
目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	世界史Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
基	諸問題（政治・外交・経済等）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	基本的な歴史的な事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近代ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展
2 学期	第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の独立 第16章 現在の世界 問題演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

山川出版社『改訂版 詳説 世界史B』 啓隆社『新世界史要点ノート 応用編』 啓隆社『世界史重要語句Check List』
--

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 課題 討議

科目名	日本史B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	原始から現代に至る歴史の展開を理解し、現代社会においての自己の在り方について理解することができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
価値	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
基礎	基本的知識身に付け、歴史が複合的な要因で成り立っていることを理解することができる。	歴史的思考力を培い、国際社会において主体的に生きる日本人の自覚と資質を身につけることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
標準	基本的知識身に付け、歴史が複合的な要因で成り立っていることを理解することができる。	日本史の基本的な流れを理解し、現代社会とのつながりなどを多面的に考察し、公正に判断することができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学期	

何で学ぶか (教材)

詳説日本史B (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	地理B	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	生活から課題を発見し、事象の因果関係を見出し、その事象に何らかの法則が存在するかを考察し、説明することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	地理Bで学んだ洞察力・思考力を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
基	諸問題（民族・領土問題、国際関係など）の原因・構造を的確に捉え、適切な用語・概念を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	課題に対して適切な用語・概念を選択し、解くことができる。	適切な用語・概念を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	基本的な歴史的事象や概念を理解し、解答することができる。	問題文の意味を理解し、用語や概念を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1 章 現代世界の地域区分 2 章 現代世界の諸地域 (東アジア～西アジア・中央アジア)
2 学期	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 (北アフリカとサハラ以南のアフリカ ～オセアニア) 共通テスト演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

帝国書院 新詳地理B 帝国書院「新詳高等地図」

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 作業（白地図を利用した作業など） 討議

科目名	物理	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学 コース	理系
目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	物理学の基本的な概念や原理・法則を深く理解し、応用的な問題において式を立て、解を導くことができる。	図表やグラフ、解の意味を読み取って深く考察することができるとともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークや実験等において深く探究しようとする姿勢を持ち、調べたり考察したりできる。
基	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な問題において式を立て、解を導くことができる。	図表やグラフを正確に読み取って考察することができるとともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークや実験等において自らの役割を見出し主体的に活動できる。
準	物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度理解でき、公式を扱うことができる。	図表やグラフを正確に読み取り、考察することができる。	グループワークや実験等において、分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
評価方法	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第4編 電気と磁気 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波
2 学期	第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核 共通テスト対策演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

教科書 (『改訂版物理』数研出版)
問題集 (『リードα物理・物理基礎』)
Google Classroom
Jam board
Kahoot!

どのように学ぶか (授業方法など)

問題演習
グループワーク
実験や探究活動

科目名	生物	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	生物の基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。 実験、実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	生物の基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。 実験、実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることのもとに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	生物の基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	生物の基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等	

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第4編 生態と環境 第5編 生物の進化と系統
2 学期	問題演習 (共通テスト対策を中心にする)
3 学期	

何で学ぶか (教材)

教科書 (数研 改訂版生物 (310)) ワーク (数研 リードα生物'生物基礎) 資料 (数研 フォトサイエンス生物図録)

どのように学ぶか (授業方法など)

講義、演習 実験、実習 グループ活動

科目名	化学	授業時数	週 5 単位	3 学年
		コース	志学 コース 理系	
目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	<i>S</i> 使える 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、応用問題に対して答えを導き出すことができる。実験・実習の操作が確実にできる。	化学的な事物・現象に問題を見出し、科学的な考察をもとに導き出した考えを的確に表現している。実験・実習のレポート作製ができる。	課題・ノート・ワークを期限を守って確実に提出する。授業においても、積極的な授業参加がみられ、主体的に活動している。
	<i>A</i> わかる 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、それを用いて答えを導き出すことができる。実験・実習の操作をおおむね身につけている。	化学的な事象や法則について科学的に考察し、論理的に説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出期限を守り、授業においても、発言・質問をするなど、積極的な授業参加がみられる。
	<i>B</i> できる 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をほぼ身につけている。実験・実習に取り組むことができる。	適切な用語・化学式を使い、事象や法則を説明することができる。	課題・ノート・ワークの提出ができ、授業に参加しようとする態度がみられる。
	<i>C</i> する 化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、知識をある程度身につけている。	教科書・問題等の意味を理解し、用語や化学式を適切に用いることができる。	授業を受ける準備ができており、参加しようとする態度がみられる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート	授業・定期考査・小テスト・提出物・実験レポート

いつ、何を学ぶか (学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	無機物質 有機化合物
2 学期	高分子化合物 共通テスト対策演習
3 学期	

何で学ぶか (教材)

実教出版『化学 新訂版』 第一学習社『八訂版 スクエア最新図説化学』 数研出版『六訂版 リードα化学基礎+化学』 演習プリント 共通テスト対策問題集

どのように学ぶか (授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 実験・観察
--